

地域コミュニティを育む場

(一社) ソーシャルコーディネートかながわ

葉石 真澄

株式会社 RINNE

(一社) Women Help Women

西田 治子

Creative Reuse Centerあおば 準備室プロジェクトの紹介

株式会社 RINNE

RINNEとは、モノを捨てることなく
クリエイティブな価値を見出し
社会に循環させていく”クリエイティブリ
ユースプロジェクト”

社名の由来「RINNE（リンネ）」



仏教用語で「輪廻（りんね）」では人の死後、そのカルマ（業（ごう））の応報によって霊魂が鳥獣草木や他の人間に転生するという観念。

わたしたちは「モノを捨てることなく、（あらためて転生させる）クリエイティブな価値を見出し循環させていきたい（モノの循環）」と考え名付けました。

消費する生活者から、創造する生産者へ

- 使えなくなったから捨てるのではなく、一人ひとりが自ら工夫して、活かすソーシャルマーケットを実現する
- だれもが廃材を工夫次第で価値に変えていくクリエイティブなアプローチ
- RINNEとは、廃棄するのではなく、工夫して循環させる意識改革

Creative Reuse / Upcycle

クリエイティブリユース

- 要らないものを想像力を駆使し有益に変え
- サーキュラーエコノミー、SDGsの課題である再資源活用のひとつの答え

家庭にある不要になったもの
文具、手芸用品、包装紙、袋類
缶、瓶、雑貨、着物、おもちゃ

企業にある不要になったもの
文具、紙製品、催事演出用品
細かな部品、端材、余剰品



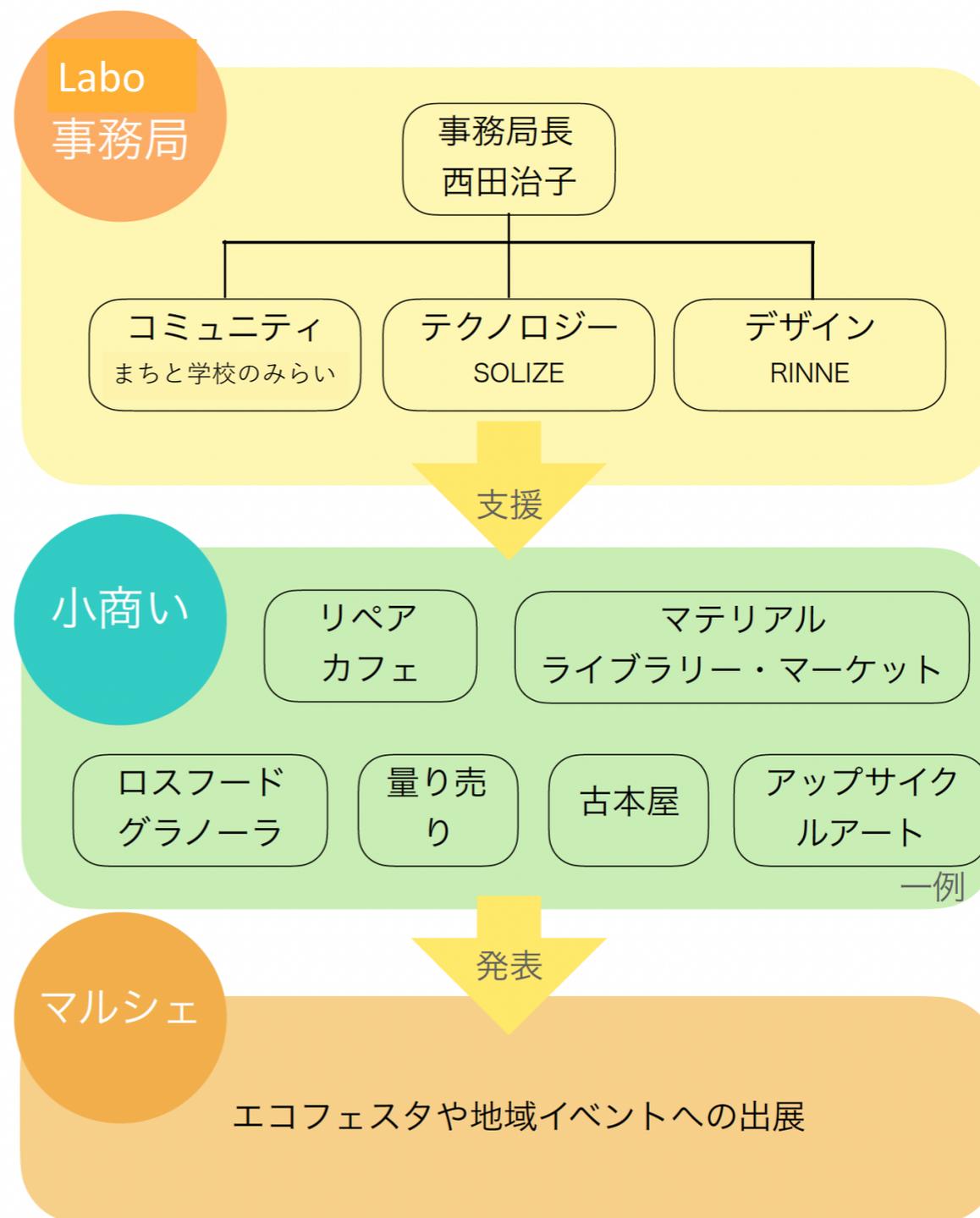
アートやクラフトの素材
学習材料・製品開発



Creative Reuse Centerあおば準備室プロジェクト

持続可能な社会づくりへの行動変容をもたらすCreative Reuse Center実現に向けて

- Creative Reuseに関連する企業、地域住民、行政の共創アクションを導き出す実践型のリビングラボの創設と運営を2023年にスタートいたします。
- 私たちのリビングラボ事務局の特色は「テクノロジー」（技術力をもつSOLIZE様）「コミュニティ」（青葉地域活動団体のまちと学校のみらい様）「デザイン」（RINNE）専門性を活かした実践団体といたします。
- 私たちのリビングラボ事務局は地域の小商い活動（新産業共創プロセス）を活性化するハブとして活動いたします。



3Dプリンターを活用した、リペア・カフェ活動

あおばコミュニティ・テラスで、実施予定のリペア・カフェはすでに実践例があります

リペア・カフェとは

- オランダで発祥したリペアカフェは、自分が直したいものを持ち込んで、ボランティアの家電製品、自転車、玩具、家具、衣料品などの修理が得意な人（修理マスター）に、修理の仕方を習って、自分で修理をしたり、一緒に修理してもらうことができる
- 世界にリペア・カフェの活動は広がっており、35の国と地域で参加者のコミュニティは2000を超えている。オランダの本部が、様々なものの修理情報をコミュニティで共有できる仕組みづくりも行っている

リペア・カフェの意義

- リペア・カフェは、修理を起点に参加者同士でコミュニケーションが生まれ、共に使い続けるコミュニティが形成される。その結果、修理に関する勉強会が開かれたり、様々なものの修理方法に関する知識をデータベース化して、共有できるようになっている。また、これまで社会であまり注目されてこなかった、修理のノウハウを持つ高齢者や、今では廃れてしまった技術をもつ人たちの貢献の場を提供することにもつながる



Source:RINNE、REPAIRE CAFE@Netherlands
<https://www.repaircafe.org/en/>

リペア・カフェ 背景と狙い

SOLIZEについて

30年以上にわたり製造業のお客様にエンジニアリングサービスを提供してきた会社です

SOLIZE

| | |
|-------|---------------------------------|
| 名称 | SOLIZE株式会社 (SOLIZE Corporation) |
| 設立 | 1990年7月27日 |
| 本社所在地 | 東京都千代田区三番町6番3号 |
| 代表者 | 代表取締役社長CEO 宮藤 隆彰 |
| 社員数 | 1,719名 (連結：2020年12月末) |

3Dプリンティングエンジニアリング
3Dプリンターによるプロトタイプ製作と小ロット生産



- SOLIZE株式会社は30年以上にわたって3Dプリンターによる造形品の製造を行ってきた
- 2021年には「本質的に美しいものづくり」の実現を使命に掲げ、自然環境と調和した持続可能な製造業への変革を目指している
- 3Dプリンターを製品リペアに活用し、製品を長く使うライフスタイルの実現に貢献できないか試行している

クリエイティブ・リユースセンター機能のパイロット実践

リペア・カフェ活動は、地域の様々な方々との協働リビング・ラボプロジェクトの第一弾

リビング・ラボ（身近な課題解決の実践）の協働

地域のまちづくり課題に取り組むNPOと、SOLIZEと協働で、リビング・ラボのパイロット実践へ

リビング・ラボ

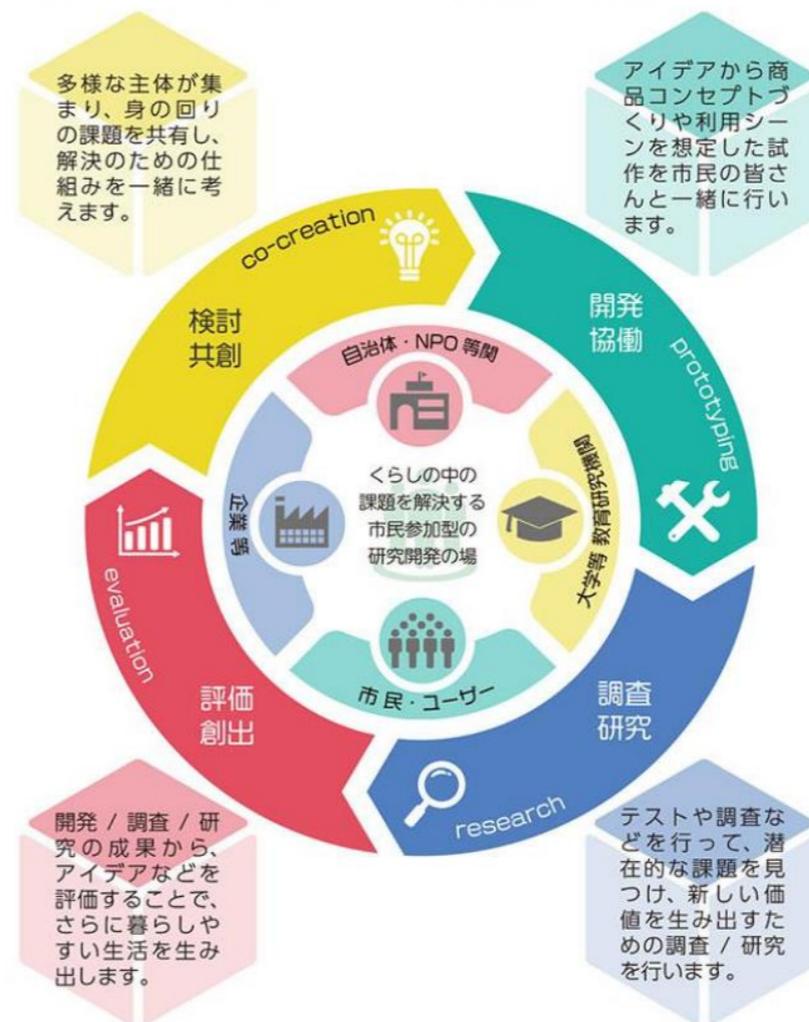
リビング・ラボとは、オランダで発祥した、市民・社会を中心に据えて、日々の生活や仕事の現場（リビング）などを研究開発の場（ラボ）に見立て、多様な主体と協働してデータを一緒に分析したり、アイデア創出をしながら、社会課題を解決する活動。

地域自治体、市民団体、市民、大学等の教育機関、企業がアイデア創出・リサーチやプロトタイプ検証・ディスカッションなどの協働作業をする「場」を作る。ここで、環境問題の解決に向け身近な実践を行うことができる

- 地域ぐるみの持続可能な社会づくりのために、市民が主体的に様々なアイデアを醸成し、実践につなげていく
- 今回は、リペア技術、様々な廃材のアップサイクル、リユース、エコ素材開発に関わるリサーチ、イノベーションに必要な技術開発、知識の交換、情報提供、教育などをオープンに行う

リビング・ラボのイメージ

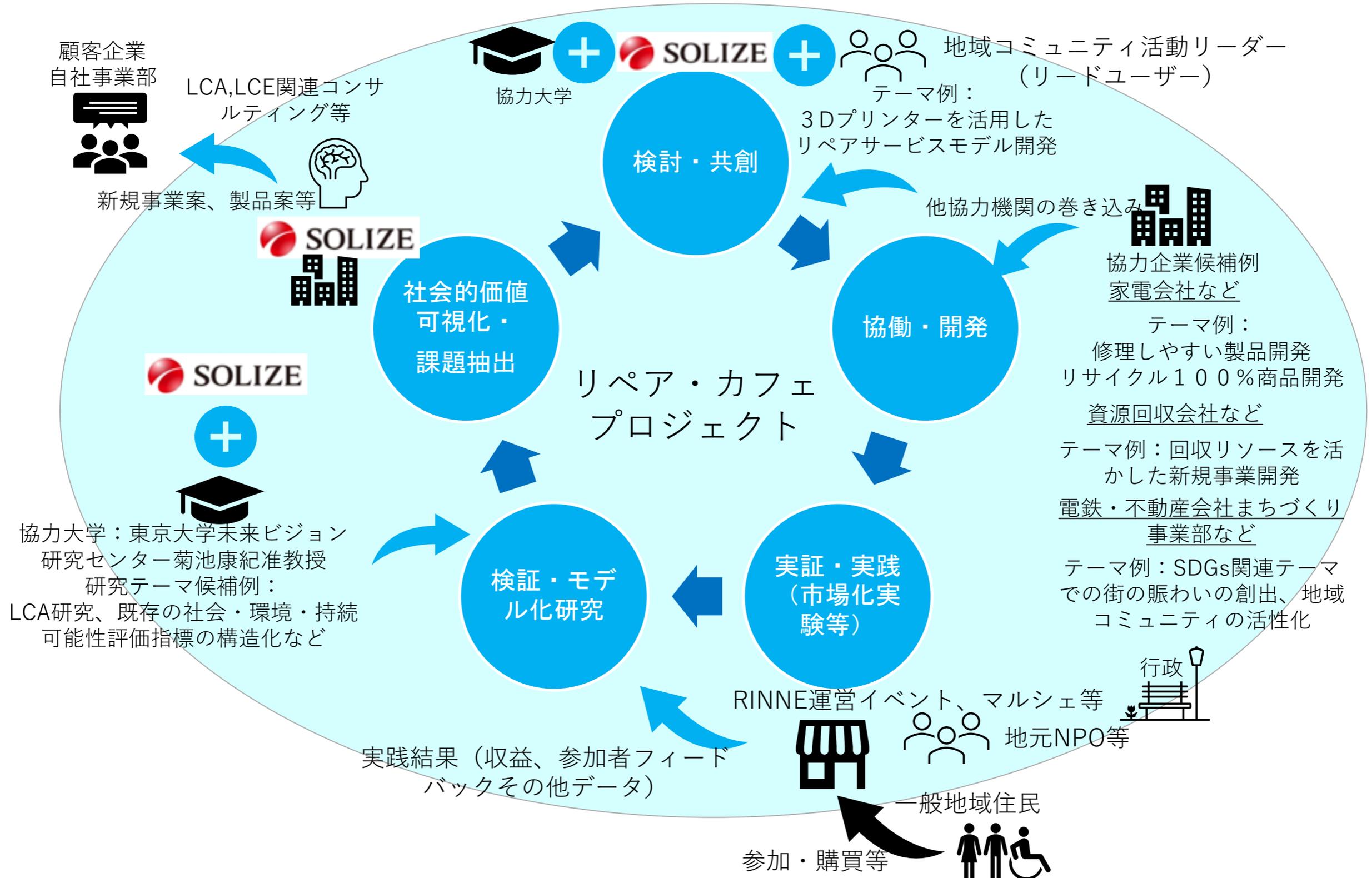
市民・ユーザーを中心とした
ものづくりやサービス・政策等を創出します



Source:信州大学、リビングラボとは
<https://www.shinshu-u.ac.jp/project/livinglab/about.html>

リペア・カフェをテーマとしたリビング・ラボでの協働モデルイメージ

RINNE提供プラットフォーム（RINNEがプロセスをマネージ）



イベント提案：エコフェスタ ～地球にやさしい文化祭～（仮称）

テーマ：ごみをはじめ資源、食生活、地域貢献など、楽しく学び、体験するサービスを提供するイベント。環境をはじめライフスタイルを考え直す機会の提供を目指す

場所：地域コミュニティのハブ的なところで、市民の方々の参加しやすい場所→
まちと学校のみらいと協働して、あおばコミュニティテラスで隣の公園（市ヶ尾第三公園）も活用してイベントを実施できないかと提案中

内容：

■販売

リサイクル・マテリアルマルシェ



エコランド・RINNE

フードマルシェ



Why Juice?・リンネバー

アップサイクルショップ



Humorabo

■体験

クラフト



RINNE

リペア



SOLIZE

アート



武蔵野美術大学

■その他



トーク
ゲーム
音楽
ダンス

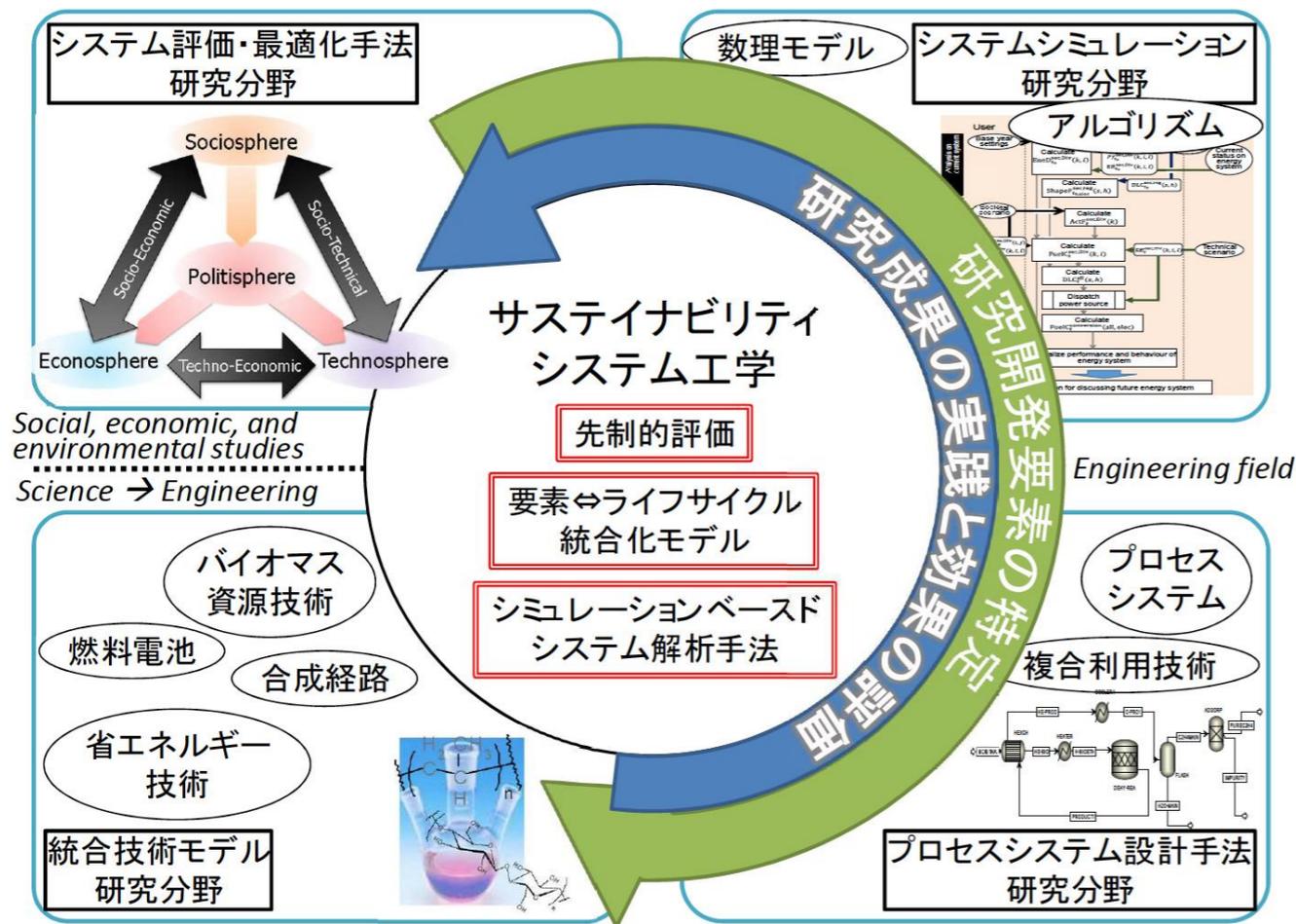
RINNE

※RINNEのメンバー

事務局：株式会社RINNE

東大未来ビジョン研究センター 菊池康紀研究室

地域資源を循環させる物質・エネルギーシステム設計の理論や技術的・社会的・社会経済的評価について、研究、実証プロジェクトを実践



社会実装トライアル：例 種子島



参考事例

日本の事例：上勝町ゼロ・ウェイストセンター



運営会社:BIG EYE COMPANY

- 旧日比谷ゴミステーションの改修にあたり、指定管理料のみではダメだと、ゼロ・ウェイストと経済と両立の仕組みを提案
- サステナブルな社会を本気で実現しようと、すでに大手企業をはじめ、ベンチャー企業、他自治体との連携の話が進んでいる

